

# 第3期海洋基本計画における 海洋教育の推進について

令和4年12月19日  
内閣府 総合海洋政策推進事務局

# 海洋基本計画について

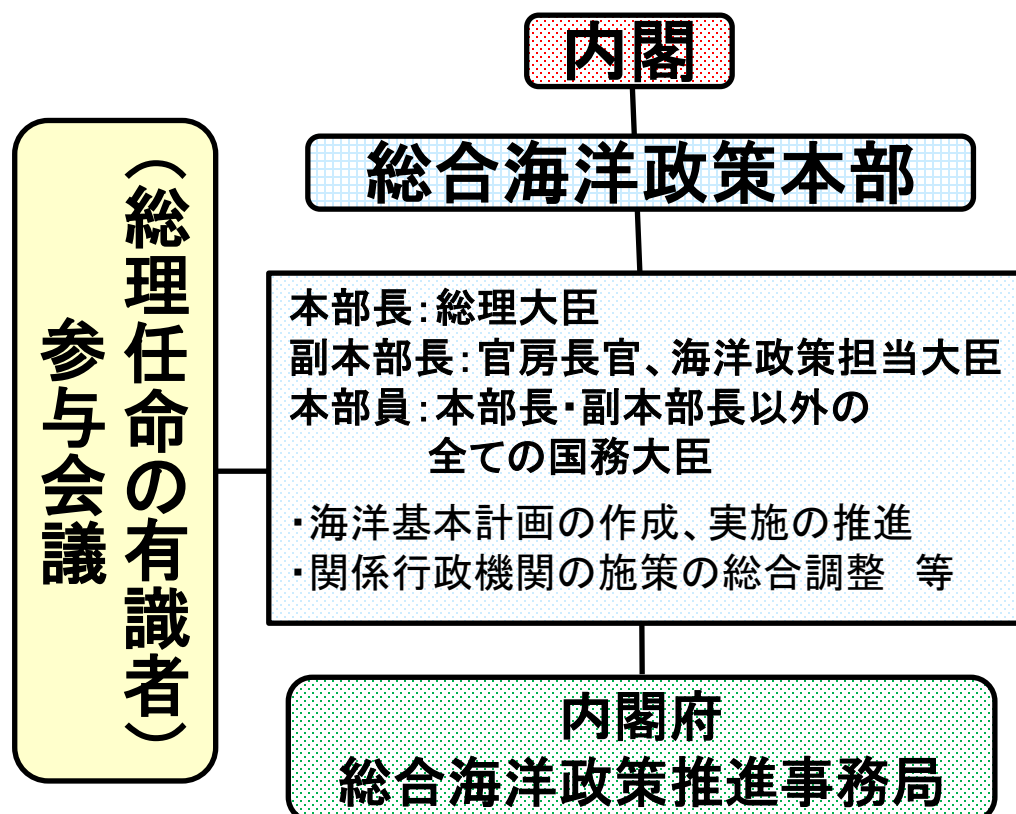
- 我が国の海洋に関する諸施策は、**海洋基本法及び海洋基本計画に基づき、総合的かつ計画的に推進。**
- 第2期海洋基本計画は、平成25年4月に策定され平成30年4月で5年を経過。
- 新たな海洋基本計画(第3期海洋基本計画)を平成30年5月15日に閣議決定。

※海洋基本法では、「おおむね5年ごとに、海洋基本計画の見直しを行い、必要な変更を加える」とこととされている。

## < 海洋政策の推進体制 >

### 海洋基本法の成立(平成19年4月20日)

- 第1期海洋基本計画 (平成20年3月閣議決定)
  - 第2期海洋基本計画 (平成25年4月閣議決定)
  - 第3期海洋基本計画 (平成30年5月閣議決定)
- おおむね5年ごとに見直し



# 第3期海洋基本計画 海洋教育関連(抜粋)

## はじめに 現在の我が国の取組状況(海洋人材の育成と国民の理解増進) (P6)

平成29年に公示された小・中学校学習指導要領では、海洋に囲まれ多数の島からなる我が国の国土に関する指導についての充実を図った。また、全ての市町村で適切に海洋教育を実践することを目指して、「ニッポン学びの海プラットフォーム<sup>5</sup>」の形成を進めている。

<sup>5</sup>平成28年7月18日、「海の日」を迎えるに当たっての内閣総理大臣メッセージにおいて、海洋教育の取組を強化していくため、産学官オールジャパンによる海洋教育推進組織「ニッポン学びの海プラットフォーム」を立ち上げ、プラットフォームを通じて、2025年までに、全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指す旨発信。

## 第1部 海洋政策のあり方(子どもや若者に対する海洋に関する教育の推進) (P26)

海洋人材の育成は、幼少期から小学校・中学校・高等学校(以下「高校」という。)の初等中等教育段階における国土や産業の理解、気候に関する科学的理解、我が国の歴史と海との関わりについての理解を深めるなど、体験活動を含めた海洋に関する教育を推進することを通じて、海に親しみを持ってもらう中で、海に関わる産業の存在や、その重要性を認識すること等により関心を持つところから始まる。

このため、小学校、中学校、高校の学習指導要領において、海洋に関する教育についての指導の充実が図られたことも踏まえ、引き続き、学校における海洋に関する教育を推進する。

## 第2部 講ずべき施策(子どもや若者に対する海洋に関する教育の推進) (P78)

○2025年までに全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指し、「ニッポン学びの海プラットフォーム」の下、関係府省・関係機関間の連携を一層強化する。(内閣府、文部科学省、国土交通省)

○学校現場で活用できる副読本(インターネット上におけるものを含む。)の開発や、施設見学、キャリア教育の推進、教員がアクセスして使えるデータ利用・教材作成の手引きの充実等を通じ、教育現場が主体的かつ継続的に取り組めるような環境整備を行う。特に、海洋に関する科学的な理解を深めるため、副読本において、大学・研究機関等における研究開発の最新の状況を児童生徒の発達段階に応じて解説・情報発信する。(文部科学省、国土交通省)

○海洋に関する教育の総合的な支援体制を整備する観点から、学校教育と水族館や博物館等の社会教育施設、水産業や海事産業等の産業施設、国立研究開発法人等の研究機関、海に関する学習の場を提供する各種団体等との有機的な連携を促進する。(文部科学省、農林水産省、国土交通省)



## 1. 方向性の検討

海洋基本計画・  
総合海洋政策  
本部参与会議

H30.5  
第3期計画策定

(毎年意見書を  
総理に手交)

R4.7  
意見書

※人材育成について横断的に議論

## 2. 教育資源の整理

① 海洋教育情報  
プラットフォーム

R2.4 HP公開

R3.8 リニューアル  
(教育コンテンツ  
の充実)

② 海洋状況表示  
システム「海しる」  
(内閣府、国土交通省)

H31.4 「海しる」  
運用開始

R4.9 教育向け  
コンテンツ整備

## 3. 連携の促進

① ニッポン学びの海  
プラットフォーム会合

R4.12  
第1回

## 1.方向性の検討

- 平成30年5月 第3期海洋基本計画を策定
- 毎年春、総合海洋政策本部参与会議意見書の総理への手交(内閣府)
- 令和4年7月 参与会議意見書(人材育成について横断的に議論)

## 2.教育資源の整理

- ① 令和2年4月 内閣府ホームページに「海洋教育情報プラットフォーム」を立ち上げた。  
各施設がもつ海洋に関する教育資源や、海洋教育に関する取組を掲載。(内閣府)
  - 令和3年8月にホームページのリニューアルを実施
    - (1)ビジュアル化による使いやすさ・親しみやすさの向上
    - (2)「海洋状況表示システム」(海しる)との連携
    - (3)掲載コンテンツの充実
- ② 令和4年9月 海洋状況表示システム「海しる」における教育向けコンテンツを整備  
(内閣府、国土交通省)

## 3.連携の促進

- 令和4年12月 ニッポン学びの海プラットフォーム会合の開催(内閣府、国土交通省、文部科学省)



各施設がもつ海洋に関する教育資源や、海洋教育に関する取組をまとめたホームページ

- 令和2年4月に、内閣府の海洋政策ウェブページ上に開設
- 各都道府県の水族館や博物館などの海洋関連施設や、海洋教育に関する取組を掲載
- 地域別、キーワード別（海と地球、海の生物、海洋文化、環境、水産、船、港等）でも検索可能
- 令和3年8月に、学校教育において活用可能なオンライン教材をまとめ、掲載
- 掲載数：330件程度

The screenshot shows the Cabinet Office website with a search bar at the top. A red box highlights the search bar with the text: "「海洋政策 検索ワード」を入力（AND検索により、内閣府HP全体から海洋政策関連に絞る。）". Below the search bar, a QR code is visible. The main content area features a large banner for the "海洋教育情報プラットフォーム" (Marine Education Information Platform) with a blue background and white text. Below the banner, there are navigation links for "地域から探す" (Search by region) and "キーワードから探す" (Search by keyword). A red box highlights a section titled "※より詳しい地図から探す ⇒ 海洋状況表示システム（海しる）" (Search for more detailed maps ⇒ Marine Situation Display System (Sea Shiru)). Below this, there is a description of the system and a link to "海しる（海洋状況表示システム）".

海洋教育情報プラットフォームで取りまとめている施設等の情報を、「海しる」にも掲載

The screenshot shows the Marine Situation Display System (Sea Shiru) interface. It features a map of Japan with various markers indicating marine-related facilities. On the left side, there is a sidebar with a list of selected layers (レイヤー) including "博物館等" (Museums, etc.), "水族館" (Aquariums), "自然体験施設" (Natural experience facilities), and "海洋教育関連団体" (Marine education related organizations). The map shows a detailed view of the Kanto region, with markers for various facilities and locations.

「内閣府 海洋教育」で検索

URL: <https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/education/education.html>

# オンライン教材の掲載

**海洋文化**  
海辺の生活、海洋遺産、美術品など

**水産**  
漁業、養殖など

**港**  
海運、貿易など

**環境**  
海洋汚染、地球温暖化など

**船**  
船具、造船、船など

**その他**

印刷用  
印刷用 (PDF形式: 367KB)

- 令和3年8月から、学校教育において活用可能なオンライン教材を掲載
- 教科、対象学校種で絞り込み  
教科: 理科、総合・特別活動、社会、その他  
学校種: 小学校低学年・高学年、中学校、高等学校

オンライン教材を探す

○教科から探す

[理科](#) [総合・特別活動](#)

[社会](#) [その他](#)

○学校種から探す

[小学校低学年](#) [中学校](#)

[小学校高学年](#) [高等学校](#)

※「海洋教育情報プラットフォーム」への掲載希望・内容の変更については以下にご連絡ください。  
(お問い合わせ先) 総務海洋政策推進事務局: 03-6257-1767 (代表)

リンクから各サイトに飛べる。

オンライン教材名	施設名	対象学校種	関係教科	概要
サイバルチャンネル	旭川市科学館サイバル	小学校低学年、小学校高学年	理科	科学原理や現象を体験しながら学んでもらうための動画を制作し、Youtubeで公開している。
市立函館博物館デジタルアーカイブ	市立函館博物館	小学校低学年、小学校高学年、中学校、高等学校	社会、理科、総合・特別活動、その他	市立函館博物館では、所蔵資料のデジタルアーカイブ化に取り組んでおり、所蔵する博物館資料の一部を公開しています。
海鳥を学ぼう 教育カリキュラム	北海道海鳥センター	小学校低学年、小学校高学年、中学校、高等学校	理科、総合・特別活動	米国魚類野生生物局で開発された海鳥教育カリキュラムの日本語版。全部で18のアクティビティがあり、海鳥の生態や海洋環境について学ぶことができる。 ※「北海道海鳥センタートップページ」→ページ上部「活動」→ページ左部「海鳥を学ぼう」からもアクセス可能
蘭越町貝の館	蘭越町貝の館	小学校低学年、小学校高学年、中学校、高等学校	社会、理科、総合・特別活動	海洋プラスチックごみに関するオリジナルコンテンツ動画、山・川・海のかかわりに関するオリジナルコンテンツ動画を公開しています。
学習コンテンツ	青森県宮浅虫水族館	小学校低学年、小学校高学年	社会、理科、その他 (図画工作)	海や川など水辺の生き物について楽しく学べる学習コンテンツを提供しています。

- ニューノーマル時代の学校教育も見据え、海洋教育に対する教育関係者の利便性を向上
- 家庭での自習等に役立つ情報を広く提供



# 「海する」海洋教育コンテンツ（内閣府、国土交通省）

- 海洋状況表示システム「海する」は、政府機関等が保有する様々な海洋情報を集約し、地図上で重ね合わせて表示できる情報サービス。小中学生やその教職員向けに「海する」を操作しながら海洋について学べる海洋教育コンテンツを令和4年9月に掲載。



<https://www.msil.go.jp>

## 「海する」海洋教育コンテンツの特長

### Point 1

アプリケーションソフトウェアのインストールが不要で「海する」にアクセス後すぐに使えます。



### Point 2

「教科・単元選択画面」から知りたいテーマを自由に選んで学べます。



### Point 3

テーマ毎に関連する情報を選択、表示した「海する」マップを作成。「海する」を操作しながら学べます。



## 「海する」海洋教育コンテンツの利用方法

### 1 まず「海する」トップページにアクセスしよう！

### 2 教科・単元選択画面で学習テーマを選ぼう！

### 3 解説画面で「海する」を操作しながら学習しよう！



## 海洋ごみ教材(小中学生用・高校生用)

- 社会科や家庭科などの教科の中で、海洋ごみに関連すると考えられる単元の題材として、授業で利用しやすい素材を提供することを目的として作成されたもの。学校の授業や課外活動など、使用する目的や内容に合わせて、スライドを取捨選択して使用するなど対象者に合わせて、利用する。対象：小中学生用(対象者:小学校5年生～中学3年生)、高校生用(対象者:高校1年生～3年生)

(例)

### 教科及び単元におけるスライド組み合わせ使用例

対象	教科	単元	学習内容	スライド使用例
小5	社会	わたしたちの生活と環境	環境を守るわたしたち	p6・7・9(問題提起) p12(解決のための取り組みの提示)
小5	社会	世界の中の日本	日本とつながりの深い国々 世界の未来と日本の役割	p6・8(問題提起) p13・14(解決のための取り組みの提示)
小6	理科	ヒトと自然	人の暮らしと環境	p6・9・10・11(問題提起) p12(解決のための取り組みの提示) p15(身近な地域の調査)
中1～2	世界地理	日本の周辺国、世界の国々の調査	統計資料からの国の特徴の調査、 「つながり」をキーワードとした国の調査	p6・8(問題提起) p13・14(解決のための取り組みの提示)
中1～2	日本地理	資源と環境	世界と比べてみた日本 環境問題	p6・8・11(問題提起) p13・14(解決のための取り組みの提示)
中1～2	日本地理	身近な地域の調査	野外調査	p6・7・8(問題提起) p13(解決のための取り組みの提示) p15(身近な地域の調査)
中1～2	日本地理	日本の都道府県の調査	いろいろな角度からの調査 テーマを決めての調査	p6・7・10・11(問題提起) p13(解決のための取り組みの提示)
小5～6 中1～3	家庭科	身近な消費生活と環境	環境に配慮した生活の工夫 3R	p5・6・10(問題提起) p12(解決のための取り組みの提示)



大学・研究機関・企業等が提供する、本物の社会課題や最先端の研究課題等を入口に探究的・教科横断的な学びを始めるきっかけになる動画・資料コンテンツ群である「STEAMライブラリー」を、2021年3月より無料公開。コンテンツ拡充・プラットフォームの改良を行った上で、2022年3月にリニューアルオープン。

その活用・普及のため、コンテンツ紹介・活用事例共有イベント等を通じて、教員や事業者等によるSTEAM教育実践に向けたコミュニティを育成。

(例)

(STEAM Libraryの教材例) 海とともに拓く日本の未来(高校生用) コンテンツ提供:株式会社日経BP・国立大学法人長崎大学

- 長崎大学のさまざまな分野の研究者による「海洋」に関する研究について学び、高校生を中心に児童・生徒が海洋に関する基礎知識を修得し、生態系や環境、水産業、エネルギーなど幅広い視座を養えるコンテンツとして制作。
- 通常の動画に加えて、仮想現実(VR)を活用した動画コンテンツ2本を視聴できる。

総論～水産と海洋のこれから



(STEAM Libraryの教材例) 水産資源の持続可能性×科学学習の活用(中学生・高校生用) コンテンツ提供:株式会社COMPASS

- 日本の漁業生産量はこの30年間で1/2まで減少している。一方で、世界の漁業生産量はこの30年間で約2倍に膨らみ。そのうちの約5割が養殖生産によるもので、伸び続ける消費量を支えている。
- 学びのポイント:水産業の持続可能性を探究していく中で、様々な課題を解決するために学校での教科の学びが生かされていることに気づく。その気づきを利用して、自らのゴールと教科の学びを紐付ける目標設定を行う。

かっこよく稼げて社会の課題解決につながる仕事って何？



<https://www.steam-library.go.jp/>



(例)

## 水産研究・教育機構HP(子ども向けサイト)



<https://www.fra.affrc.go.jp/forkids/index.html>

## 農林水産省HP(子ども向けサイト)



### 水産業(すいさんぎょう)



マンガ「すごいぞ海! すごいぞ漁業(ぎょぎょう)!!!」(PDF: 5,696KB)

水産業(すいさんぎょう)・漁村(ぎょそん)のもつ様々な役割(やくわり)(多面的機能(ためんてききのう))を紹介(しょうかい)したマンガです。

<https://www.maff.go.jp/j/kids/index.html>